



**発行：NPO 法人シャローム事務局**

〒960-1241 福島県福島市松川町字東原 17-3  
TEL / FAX 024-567-5322

Web <http://www.nposhalom.net>  
E-mail [info@nposhalom.net](mailto:info@nposhalom.net)

発行責任者：大竹静子

# あけましておめでとうございます

## 本年も宜しくお願いいたします 二〇一六年の活動予定

平成二十八年が始まりました。あけましておめでとうございます。年が改まると何故か新鮮な気分になるように思います。今年もすでに多くの活動が始まっています。シャロームの決算は、三月までが一年間となるため、現在は昨年の活動の整理が中心に行われています。

十二月に行われた「ひまわり感謝祭」。一年間の「ひまわりプロジェクト」を締めくくるイベントとして行われました。栽培協力者を募り、種の配布、交流事業を行いながら花を咲かせ、収穫時期を向かえ、種が戻ってくる。ひまわりの一生と共に繰り広げられる全国的な地域間交流が展開してきている様子が「ひまわり感謝祭」での「地域間交流プロジェクト」において発表されました。パネラーには北海道、神奈川、岡山から。会場には九州からも参加し、全国をひまわりが繋いでいることが良くわかります。このプロジェクトの内容を報告書として冊子にまとめようと作業に入っています。

活動している地域の事情で、具体的な広がり方には違いはあるものの、各地の報告を見ると参加者には子どもから大人、老人まで多くの人たちが一緒に取組んでいる様子がよくわかります。そして、シャロームから現地を訪問する「ひまわり大使」が、現地での大歓迎を受けながらの交流を通して、全国と福島との距離を埋める大きな役割を果たしていることを改めて知ることができました。

ひまわり栽培の苦労話も聞かれました。種を植えても咲いてくれないというのが、栽培する皆さんの共通の悩みで、栽培アドバイザーの菅野さんから「目からうろこ」のアドバイスを受け、「元氣付けられて来年もがんばろう」ということで盛り上がりつつあります。これらの内容は、今年の栽培協力者のみなさんにもおおいに参考になるものと思われまので、種の発送時期までには完成させたいと考えています。

また、「なおこバンド」さんが「ひまわりプロジェクト」のために製作したオリジナル曲「ひまわり」がCDになりました。グループで栽培に取り組んでいる皆さんには、「ひまわり感謝祭」の終了報告と



▲ひまわりクッキー。憩の仲間たちの手書きメッセージカード入り。

ともに送らせていただきました。ホームページでは「ひまわり」の曲に合わせて「ひまわりプロジェクト」の様子がわかる動画も配信されています。グループ内での報告会等で楽しみながら活用していただければと思います。

このほかにも、ひまわりプロジェクトの紹介パネルの貸し出し、ひまわり油「みんなの手」やひまわりクッキーの販売も可能となっております。今年はずいぶん「ひまわり大使」と交流したいという希望も含め、事務局までご連絡をいただければ幸いです。

今年も、シャロームの会員や協力者の皆さんを繋ぐ交流事業として、教養講座「地元学を考える」と「ひまわりプロジェクト」を充実させていきたいと思えます。皆さんとともに、楽しみながら、今年も一年間元気に活動して行きたいと思えますのでよろしくお願いたします。

(シャローム代表 大竹静子)

愛のつれも長

新年を迎えた。毎日が過ぎていく、当たり前のように。しかし、その当たり前もいつかは終焉を迎える。父の死からまもなく一年が過ぎようとしている。一周期の法事もまもなくである。孫の新たな誕生、七ヶ月を迎える。人は生まれ、成長し、老いていく。

正月とは、人間が生み出した無形の文化遺産であることを改めて思う。季節の変化と地球の営み、その中で生かされてきた人間、何気なく繰り返される人々の日々の営み、しかし、確実に時間の中で変化していく。

切れ目のない時間の中に、一年という時間の区切りを設け、その境目に正月を置いてきた。正月を迎えられたことに、その繰り返される営みに感謝しつつ、その変化に思いを巡らす一時の安らぎを憶える。

子どもたちの成長には、日々が新たな生命の躍動を感じさせる。この「命」を守り育て未来に繋いでいくのは、大人の責任であり役割である。正月が家族に団欒と安らぎのときを与えてくれる行事として継承されていくことを願う。

(T・O)